

内村鑑三 (うちむら・かんぞう) 1861~1930

キリスト教思想家・伝道者 ~日本近代に出現した旧約的預言者~

出生 万延2年2月13日(1861)、江戸小石川鳶坂上(現・文京区小石川)に、高崎藩江戸詰藩士内村宜之の長男として生まれる。父宜之は儒学者だった。

履歴 1877年、第2期生として札幌農学校に入学し、キリスト教に出会う。翌年メソジスト派宣教師により受洗。同校を首席で卒業後、開拓使、農商務省に勤務するが、1884年に渡米、知的障害児施設で働き、次いでアマスト大学に学ぶ。1888年に帰国、「不敬事件」(1891)で一高嘱託教員を辞職、孤立無援の窮境で文筆生活に入る。1897年から『万朝報』英文欄主筆となる一方、自ら主宰して『東京独立雑誌』、『聖書之研究』を発行した。1903年、日露非戦論を唱えて万朝報退社後は、キリスト教の伝道活動に専念し、執筆、講演、聖書講義などに打ち込んだ。

事績 独自の無教会主義キリスト教を創始し、精力的な伝道活動を行うとともに、和英両文で膨大な数の著作を発表した。その文章は愛国心と正義感に満ち、特に社会的不正義を厳しく糾弾した。日露戦争や第1次世界大戦に際しては絶対非戦論を主張し、足尾銅山鉍毒反対運動や堺利彦らの社会改良運動にも参加した。伝道者としては、大正中期にキリスト再臨を説く全国各地での講演活動を行って、大きな反響を呼び起こした。また、自宅講堂で最晩年まで続けられた聖書講義は、日本の聖書学の礎を築いた偉業といわれる。

評価 キリスト教界のみならず近代日本の思想史に巨大な足跡と影響を残した思想家である。その文章の表現力は生前から評価が高く、文学史においても特筆される存在である。教育家的影響力も強く、その薫陶を受けた宗教家・学者に、藤井武、塚本虎二、高木八尺、南原繁、矢内原忠雄らがいる。

代表作

『余は如何にして基督信徒となりし乎』 英文著作。米国留学から帰国するまでの半生を信仰の歩みを中心に叙述した自伝。日本語以外の諸国語にも翻訳された。原文は全集3、邦訳は岩波文庫他。

『代表的日本人』 英文著作。西郷隆盛、二宮尊徳、上杉鷹山、中江藤樹、日蓮の5人を、優れた日本人として外国に紹介するために書かれた伝記的著作。原文は全集3、邦訳は岩波文庫他。

『羅馬書の研究』 一連の聖書講義のうち、新約聖書「ローマ人への手紙」を、1924年大著として刊行した<193.7/3>。内村が「余自身の信仰を語った」(序文)という重要な著作。全集26に収録。

キーワード 不敬事件 1891年1月、一高で教育勅語の奉読式が行われた際、勅語に対して内村が最敬礼しなかったため、新聞にも取り上げられる大問題となり、内村は不敬の徒として非難され辞職に追い込まれた。2つの「私に愛する二個の」がある、其一はイエス(Jesus)であって、其他の者は日本(Japan)である」(私の愛国心に就て)として、内村はキリスト教の信仰と日本人としての愛国心を両立させようとした。

エピソード 札幌農学校で同期の新渡戸稲造、宮部金吾らと、英語上達のために日常を英語だけで過ごすことにし、日本語を口にしたら五厘の罰金を払うことにした。また、アメリカの知的障害児施設で働いていたとき、ダニーといういたずら好きの少年を罰する代わりに自ら断食をしたところ、その話が施設の子どもたちに広まると誰も彼を「ジャップ」と呼ばなくなり、尊敬の念を表すようになった。

最期 1930年(昭和5)3月28日、心臓病のため東京府下淀橋町柏木(現・新宿区北新宿)の自宅で死去。享年69歳。



Great Works 06

内村鑑三全集 全40巻 岩波書店 1980~1984年 <190.8/32>

解題 内村鑑三の著作集はたびたび刊行されているが、これは決定版というべき全集で、確認できるすべての文章を集成している。英文著作については原文のまま収める。内村の著作は雑誌・新聞等に発表された膨大な短文を含むので、すべて初出の文章を編年体で採録している。図書は、書き下ろしの単行本はそのまま採られているが、後でまとめられたかたちでは見られない。以下の内容紹介で、出版社名のあるものは単行本、それ以外は雑誌等の文章であるが、ごく一部を示すにとどまる。

内容

1 = 1877~92 [不敬事件後までの初期の文章] 理想的伝道師 [1892年] 日本国の天職 [1892年] 他

- 2 = 1893 ~ 94 基督信徒の慰 [警 醒 社 1893 年] 求 安 録 [警 醒 社 1893 年] 他
- 3 = 1894 ~ 96 Japan and the Japanese. [民 友 社 1894 年 『 代 表 的 日 本 人 』 の 原 文] How I became a Christian. [警 醒 社 1895 年 『 余 は 如 何 に し て 基 督 信 徒 と な り し 乎 』 の 原 文] 他
- 4 = 1897 後 生 へ の 最 大 遺 物 [便 利 堂 箱 根 で の 講 演 筆 記] 愛 吟 [警 醒 社 訳 詩 集] 他
- 5 = 1897 ~ 98 月 曜 講 演 [警 醒 社 講 演 筆 記 。 カ ー ラ イ ル 論 ほか] 他
- 6 = 1898 ~ 99 文 学 士 高 山 彦 次 郎 先 生 に 答 ぶ [高 山 樗 牛 へ の 反 論] 外 国 語 の 研 究 [後 に 単 行 本 化] 他
- 7 = 1899 英 和 時 事 問 答 [英 和 併 記 の 会 話 体 時 評] 興 国 史 談 [古 代 オ リ エ ン ト 史] 他
- 8 = 1900 宗 教 座 談 [東 京 独 立 雑 誌 社 談 話 体 で 平 易 に 宗 教 を 説 く] 創 世 記 第 1 ~ 8 章 [聖 書 註 解] 他
- 9 = 1901 鉞 毒 地 巡 遊 記 [足 尾 銅 山 鉞 毒 被 害 地 訪 問 記] 我 主 耶 蘇 基 督 [キ リ ス ト 論] 他
- 10 = 1902 聖 書 の 研 究 と 社 会 改 良 [社 会 問 題 に 対 す る 立 場 の 講 演] 国 家 禁 酒 論 [国 に よ る 禁 酒 を 提 唱] 他
- 11 = 1903 日 本 国 の 大 困 難 [日 本 の 近 代 化 批 判] 戦 争 廃 止 論 [日 露 開 戦 を 前 に し て の 絶 對 非 戦 論] 他
- 12 = 1904 約 百 記 [聖 書 研 究 社 ヨ ブ 記 1 ~ 7 章 註 解] 余 が 非 戦 論 者 と な り し 由 来 [日 露 戦 争 中 の 文 章] 他
- 13 = 1905 約 百 記 註 解 [ヨ ブ 記 8 ~ 17 章] 平 和 成 成 [日 露 講 和 に つ い て の 感 想] 他
- 14 = 1906 ~ 07 余 の 旧 き 聖 書 よ り [所 持 す る 英 訳 聖 書 の 思 い 出] パ ウ ロ 微 (な か) り せ ば [パ ウ ロ の 意 義] 他
- 15 = 1907 ~ 08 土 師 ギ デ オ ン [土 師 記 註 解] 預 言 者 エ リ ヤ [列 王 記 註 解] 他
- 16 = 1908 ~ 09 櫟 林 集 (ら く り ん し ゅ う) 第 七 輯 [聖 書 研 究 社 詩 人 ホ イ ッ ト マ ン の 紹 介 等] 他
- 17 = 1909 ~ 10 朝 鮮 国 と 日 本 国 [日 韓 併 合 を 前 に し て の 感 想] ル ー テ ル 伝 講 話 [ル タ ー の 生 涯 を 語 る] 他
- 18 = 1910 ~ 11 新 約 聖 書 の 預 言 的 分 子 [新 約 聖 書 論] デ ン マ ル ク 国 の 話 [デ ン マ ー ク の 国 造 り を 称 賛] 他
- 19 = 1912 ~ 13 ル ツ 子 の 性 格 [1912 年 に 17 歳 で 急 逝 し た 娘 を 偲 ぶ] ダ ビ デ の 話 [講 演 記 録] 他
- 20 = 1913 ~ 14 イ エ ス の 系 図 [新 約 卷 頭 の 系 図 に つ い て] 信 者 と 蓄 財 [財 産 所 有 の 問 題 に つ い て] 他
- 21 = 1914 ~ 15 欧 州 の 戦 乱 と 基 督 教 [第 1 次 大 戦 を 論 評] 戦 争 の 止 む 時 [イ ザ ヤ の 平 和 思 想] 他
- 22 = 1915 ~ 16 伝 道 之 書 研 究 と 解 訳 [内 村 に よ る 訳 を 付 す] 出 埃 及 記 講 義 [出 エ ジ プ ト 記 の 講 義 録] 他
- 23 = 1916 ~ 17 路 加 伝 講 義 [ル カ 福 音 書 の 講 義] ニ イ チ エ 伝 を 読 み て [ニ ー チ エ の 才 能 と 界 限] 他
- 24 = 1918 ~ 19 復 活 と 再 臨 [キ リ ス ト 再 臨 反 對 論 を 批 判] 聖 書 全 部 神 言 論 [再 臨 運 動 の 講 演] 他
- 25 = 1919 ~ 20 モ ー セ の 十 誡 [十 戒 各 条 の 講 義] 約 百 記 の 研 究 [ヨ ブ 記 講 義] 他
- 26 = 1921 羅 馬 書 の 研 究 [「 ロ ー マ 人 へ の 手 紙 」 講 義 録] 他
- 27 = 1922 ~ 23 キ リ ス ト 伝 研 究 (ガ リ ラ ヤ の 道) [福 音 書 講 義] 背 教 者 と し て の 有 島 武 郎 氏 [情 死 事 件 批 判] 他
- 28 = 1923 ~ 24 天 災 と 天 罰 及 び 天 恵 [関 東 大 震 災 に つ い て] 箴 言 の 研 究 [旧 約 聖 書 講 義] 他
- 29 = 1925 ~ 26 十 字 架 の 道 [「 ガ リ ラ ヤ の 道 」 の 続 編 と な る 講 義] 私 の 愛 国 心 に 就 て [2 つ の J] 他
- 30 = 1926 ~ 27 聖 書 大 意 [旧 約 創 世 記 か ら 列 王 記 ま で の 概 説] パ ウ ロ 伝 の 一 部 [使 徒 行 伝 に つ い て の 講 義] 他
- 31 = 1928 イ ザ ヤ 書 の 研 究 [聖 書 研 究 会 の 講 義] 来 世 問 題 の 研 究 [福 音 書 に よ る 来 世 に つ い て の 講 義] 他
- 32 = 1929 ~ 30 仏 教 対 基 督 教 [両 者 の 違 い を 強 調 す る] [私 は 無 教 会 主 義 を ...] [生 前 未 発 表 の 遺 稿] 他
- 33 ~ 35 = 日 記 1 ~ 3 [『 聖 書 之 研 究 』 に 掲 載 さ れ た 1918 年 8 月 か ら 1930 年 3 月 ま で の 日 記]
- 36 ~ 39 = 書 簡 1 ~ 4 [1880 年 か ら 1930 年 ま で の 内 村 鑑 三 発 信 の 書 簡 2977 通 を 収 録]
- 40 = 雜 纂 ・ 年 譜 ・ 題 名 索 引

参考文献 ~この人をもっと知るために~

< 図 書 >

- 📖 内 村 鑑 三 著 作 ・ 研 究 目 録 / 藤 田 豊 編
教 文 館 2003 年 269 p < 198.99 / 126 > 常 置 (相 談 室) 資 料 番 号 21630728
- 📖 晩 年 の 内 村 鑑 三 / 安 芸 基 雄 著
岩 波 書 店 1997 年 250 p < 198.99FF / 118 > 資 料 番 号 20921904
- 📖 内 村 鑑 三 日 録 / 鈴 木 範 久 著
教 文 館 1993 ~ 99 年 12 冊 < 198.99BB / 107 >
- 📖 内 村 鑑 三 論 / 道 家 弘 一 郎 著
沖 積 舎 1992 年 237 p < 198.99BB / 106 > 資 料 番 号 20529087
- 📖 内 村 鑑 三 の 生 涯 / 小 原 信 著
P H P 研 究 所 1992 年 541 p < 198.99AA / 105 > 資 料 番 号 20439964
- 📖 晩 年 の 父 内 村 鑑 三 / 内 村 美 代 子 著
教 文 館 1985 年 277 p < 198.9 / 39 > 資 料 番 号 12327441
- 📖 内 村 鑑 三 と 無 教 会 / カ ル ロ ・ カ ル ダ ロ ー ラ 著
新 教 出 版 社 1978 年 370 p < 198.9J / 15 > 資 料 番 号 10313633
- 📖 内 村 鑑 三 と と も に / 矢 内 原 忠 雄 著
東 京 大 学 出 版 会 1962 年 539 p < 198.9 / 5 > 資 料 番 号 10313518